

Y21b 終戦直前のアマチュア天文家による太陽黒点観測報告

玉澤春史（東京大学/京都市立芸術大学）、磯部洋明、山田佳代子（京都市立芸術大学）

京都大学の花山天文台（1929年開台）初代台長である山本一清は1920年に天文同好会（後の東亜天文学会）を立ち上げ、全国のアマチュアまで含めた天文観測体制の充実をうったえ（山本・古川他1920）、後に太陽黒点の国内における観測をよびかけている（山本1926）。当時のアマチュア天文家たちは神田茂や山本一清に黒点観測記録を送付し、集計された結果は「天文月報」や「天界」で発表されていた。山本の元に集められた記録の一部は残っており、当時の全国のアマチュア天文家の観測状況が伝わってくる。1940年代に入り戦争が激しくなると報告に使用されている紙が専用の記録用紙だけでなくはがきや他の用紙などに手書きの表を作成して使用するなどして物資の確保が困難になる中で報告を継続している者もいる一方、様々な理由から観測の継続が続けられない旨の連絡や、家族に観測を引き継ぐなど、観測家それぞれの状況が伝わってくる。1945年8月15日の観測記録報告も残っており、当時の混乱状況の中でも続けられた太陽黒点観測の状況がどのようなようであったかが垣間見える貴重な記録群となっている。